

(2) 小児腫瘍科（血液科）

概要

平成 14 年 3 月 31 日現在小児腫瘍科は第一専門診療部の血液科と併任人事となっている。医長：恒松由記子（輸血検査室医師併任）医員：熊谷昌明 スーパーレジデント：清谷知賀子 レジデント：塩田曜子。小児腫瘍の中で最も多い疾患が白血病・リンパ腫などの血液腫瘍であり、小児癌の多くで化学療法が奏効するので、多くの施設でこの 2 種類の科が同一の医師によって診療されているが、厳密な意味では、再生不良性貧血、栄養欠乏性貧血はもちろんのこと、血友病・溶血性疾患をはじめ、多くの先天性の血液代謝性疾患、免疫不全は血液病に属し、その数も多いので血液科は独立すべきであると考えている。また、血液科医師が輸血検査室医師も併任して本来病院内で独立すべき輸血部の業務も兼任している。本院ではとくに入院患者については、腫瘍性疾患が多いので、本稿では腫瘍科の業務を中心に報告する。腫瘍科の患者で 3 月開院から 13 ヶ月間死亡した患者は 0 であったことは注目に値する。

診療活動とその特色

国立成育医療センターにおける腫瘍科の医療の特色

・**国立成育医療センターでは、集学的治療が行なわれている。** 昨年にナショナルセンターとして開設されて以来、小児腫瘍科がコーディネーターとなってセンターにおける全がん患者の治療にかかわることになった。2 週間に一度、血液科がモデレーターとなって、腫瘍カンファレンスを主催して、腫瘍科、外科、放射線科、病理科のほかに、脳外科、眼科、耳鼻科、内分泌科など発生部位別、機能別に患者の診断・治療に関する討議を行なっている。腫瘍科が受け持った入院患者数を主な疾患ごとに分けて次ページに表記した。

・**国立成育医療センターでは小児腫瘍に対する高度な先進医療が行なわれている。** 8 階西病棟に設置された移植用のクリーンルームを中心に大量化学療法、骨髄移植による、高度な先進医療が行なわれている。造血幹細胞移植の際の細胞の処理は血液科の医師により行なわれている。輸血部の増員の必要性を感じている。

・**国立成育医療センターでは晩期障害調査とその指導、長期フォローアップ外来を行っている。** 2002 年 7 月に後からの障害について、治療による生殖毒性、心毒性などのリスクを患者に知らせ、または患者から情報を得る、すなわち双方向の情報交換を行なうための勉強会を主催し多くの患者と親があつまった。晩期障害勉強会では、婦人科、思春期診療科、母性内科、泌尿器科、循環器科の医師に講演をたのみ、とくに小児病院時代の患者とその親が参加して熱心なシンポジウムが行なわれた。長期フォローアップ外来も開いている。

・**国立成育医療センターでは、トータルケアを行っている。** 医療チームとしては心の診療部の医師や心理士の介入を要請すること場合がある。また、看護師のほかに保育士、移植ナース、遺伝ナース、ケースワーカー、心理士を雇用していて、医師以外の職種が支援しトータルケアを行うことができるがまだ人員が不足している。研究活動とその特色国立小児病院時代から、各種の研究班に属して研究活動を行ってきた。主に臨床疫学的研究である。以下に 14 年度に属し助成金を交付されていた研究班とその他の研究助成金、そして主な研究テーマを列挙する。

恒松由記子

1. 厚生労働科学研究費、がん克服戦略事業 10 ヶ年研究事業費

「小児がんの遺伝的・発生物学的特性の解明と診断への応用」主任研究者

交付金交付金総額 年間 19,000,000

分担研究課題：小児がん患者を対象とした基礎・臨床研究における基盤整備に関する研究

2. 厚生労働科学研究費、成育医療委託事業

「成育医療における患者・家族の前方視的研究」分担研究者

交付金：年間 1,800,000

分担研究課題：院内がん登録システムによる小児悪性腫瘍患者の晩期障害を解析する病院ベースの前方視的研究

3. 公益信託 日本白血病基金 助成金事業 平成 14 年度 受賞 1,000,000

研究課題名「わが国小児がんから発生した治療関連 2 次性白血病の実態調査とその対策について」

4. その他受託研究費、日本新薬、藤沢薬品工業等

熊谷昌明

1. 厚生省労働科学研究 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業

「小児科診療における効果的薬剤使用のための遺伝子多型スクリーニングシステムの構築に関する研究」 分担研究者 交付金 年間 1,500,000

2. 厚生労働科学研究 効果的医療技術の確立推進臨床研究事業

「小児肉腫に対する至適治療確立を目指した臨床試験とその基盤整備に関する研究」

分担研究者 交付金年間 1,000,000

研修会

(a) 患者と親のための小児腫瘍長期生存者のための勉強会 2002 年 7 月 23 日 講堂

(b) 血液科患者のための勉強会「成育医療とは何か」2002 年 12 月 15 日 講堂

腫瘍科が受け持ちになった入院患者数と主な疾患 (02.03.01 から 02.12.31 まで)

実際には腫瘍科以外が受け持ちになった患者もあり成育センターで入院した腫瘍患者はもっと多い

	初発	再発	計
白血病	5	2	7
リンパ腫	3		3
神経芽腫	6	1	7
軟部肉腫	3	1	4
肝腫瘍	1	2	3
胚細胞性腫瘍	4		4
脳腫瘍	5		5
L C H	1	2	3
R B	1		1
再不貧	1		1
D B A	1		1
I T P	5		5
計	36	8	44

以下の表に造血幹細胞移植患者 02.3.1. 03.3.31 の疾患の種類を掲載した

症例性診断 ドナー

- 1 2y F 急性骨髄性白血病再発 臍帯血
- 2 3y F 二次性白血病 非血縁
- 3 9y F 急性骨髄性白血病 父
- 4 16y M 急性リンパ性白血病再発 兄
- 5 3y M 神経芽細胞腫 自家末梢血
- 6 6m M 若年性骨髄胆急性白血病 姉